# 【高知県教育委員会】ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究

**高知県の課題**

●特別支援学校が行う地域支援において、地理的要因から特別支援学級を担当する教員への支援回数が限られている。

●令和２年４月から５月にかけて、コロナ禍の休校時に対面での指導ができないことから、自立活動の指導や通級による指導が止まっていた。

**研究の目的**

病弱及び肢体不自由の特別支援学校を研究指定校とし、特別支援学校のセンター的機能に効果的にICTを活用し、自立活動の指導に係る新たな支援方法を開発するとともに、地域支援の在り方を明らかにする。

## 県内のＩＣＴ環境について

県が管理するクラウドシステムのアカウントを県内全ての公立学校の児童生徒と教員が持っていることから、安全な環境下でクラウドシステムを活用した学校間連携ができる基盤が整備されている。

## 各研究指定校の取組

### 高知江の口特別支援学校（病弱）

【他校通級の課題】

●在籍する学校を訪問して生徒の行動観察をする機会が少ない。

●日常的な児童生徒の情報共有が少ないため、共通理解が難しい。

●保護者送迎で通っている児童生徒は、指導回数を増やす必要があっても、保護者の仕事などの都合で増やせないことがある。

○児童生徒の実態把握の在り方
- 情報収集シートを作成し、在籍校と遠隔支援会を実施

○効果的な指導及び評価の在り方
- 在籍校、家庭等と通級指導教室共通認識をもつための情報の可視化
- 遠隔での自立活動の指導（SST、自己理解等）

○外部の専門家や在籍学級担任等との連携の在り方
- 在籍校の組織的な支援体制（特別支援教育コーディネーターや学年主任の参加）
- 遠隔保護者面談

### 高知若草特別支援学校（肢体不自由）

【地域支援の課題】

●機会の制限
- 年間３回程度の直接訪問が目安であり、協議時間は１時間以内が多い。
- 訪問時期が小・中学校のニーズと一致しないことがある。
- 支援機会が単発のこともある。

●訪問にかかる負担
- 長距離移動が必要なことがある。
- 課業中に、複数名で訪問することが難しい。

○児童生徒の実態把握の在り方
- 相談内容確認シートの活用と遠隔協議
- 複数名で共有し客観的な評価へ

○効果的な指導及び評価の在り方
- 動画データ共有による実践交流
- 個別の指導計画の作成支援

○外部の専門家や在籍学級担任等との連携の在り方
- クラウドシステム内で日常的な支援
- 研修（オンデマンド含む）
- 書籍等の案内
- 訪問後の追加説明、資料共有等（必要なときに、必要な情報を）

## ２年間のまとめ

**対面での支援にICTを活用した支援を組み合わせることで選択肢が増え、多様な支援によって地域の小・中学校の特別支援教育の専門性が高まった。**

### 児童生徒の実態把握の在り方

①実態把握ツールとして情報収集の要点をまとめたシートを作成、活用することが効果的である。

②対面での実態把握と遠隔での実態把握は、目的や内容によって使い分けることが必要である。

③ICTを活用することで対面だけではできない多様な実態把握が可能になる。

### 効果的な指導及び評価の在り方

①遠隔での自立活動の指導・支援には、学校間の協力体制が重要である。

②自立活動の指導・支援に対面と遠隔を組み合わせることが、日常場面の指導・支援の質を高める。

### 外部の専門家や在籍学級担任等との連携の在り方

①遠隔での会議を効果的に進めるためには、細かな工夫が必要である。

②多様な学びの場をつなぐ選択肢の１つとしてICTを活用できることが重要である。

③ICTを活用することによって、日常的に特別支援学校の支援が受けられる「安心感」を地域の小・中学校の教員が感じられることが重要である。

## 今後に向けて

各学校の実情に応じて対面による支援とICTによる支援を柔軟に選択できるように拡充し、特別支援学校の地域支援が居住地域に関係なく必要な時に受けられる環境を整備していく。